

株主通信 第76期 ご報告

2014.4.1 ▶ 2015.3.31 証券コード：4977

新たな視点で 次のステージへ



	(単位:百万円)		
	第74期 2013年3月期	第75期 2014年3月期	第76期 2015年3月期
会計年度:			
売上高	28,772	32,814	31,914
営業利益	1,595	955	392
当期純利益	1,525	665	610
研究開発費	1,026	1,004	915
設備投資額	1,193	2,949	2,449
減価償却費	825	914	1,115
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,050	△692	2,074
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,557	△3,105	△2,505
財務活動によるキャッシュ・フロー	△376	3,875	544
現金及び現金同等物の期末残高	2,258	2,406	2,602
会計年度末:			
有形固定資産	6,287	8,804	10,848
固定負債	5,828	7,528	8,283
純資産	9,724	13,781	15,373
総資産	25,190	31,389	33,932
1株当たり情報(円):			
1株当たり純資産(BPS)	607.31	742.20	831.15
1株当たり当期純利益(EPS)	96.72	37.90	33.20
その他指標(%):			
自己資本比率	38.0	43.4	45.0
自己資本利益率(ROE)	17.3	5.7	4.2
総資産利益率(ROA)	6.3	2.4	1.9
配当性向	14.5	31.7	36.1

株主の皆様へ

2015年4月1日より、代表取締役社長に就任しました尾形浩一でございます。

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げますとともに、日頃からの温かいご支援に厚く御礼申し上げます。

新田ゼラチンは、2018年に創業100年を迎えます。

私の役目は、全社員の先頭に立ち、100周年に向けて新田ゼラチングループをさらに発展させること、そして次の100年に向けた飛躍の礎(いしずえ)を築くことと考えております。

株主の皆様には、当社の事業活動にご理解をいただき、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新田ゼラチン株式会社
代表取締役社長

尾形 浩一



——2015年4月1日付で新社長に就任されましたが、尾形新社長の経歴と今後の抱負についてお聞かせください。

大学では有機化学を専攻していました。卒業後はカネボウ食品(現在のクラシエフーズ)に入社し、長くチューインガムやアイスクリームの開発に従事してきました。その後縁あって2005年より当社にお世話になることに

なりました。入社後は主に食品材料の開発や営業に携わり、当社の技術力と、お客様のニーズのコラボレーションに取り組んできました。

当社は、ゼラチンのトップ企業としてさらに成長するために、ここ数年積極的な投資を行ってきましたが、いよいよそれを成果に結びつけるステージに入ってきました。そのためには新製品開発が欠かせません。私はもともと研究開発を行う技術者として入社しましたので、その経験を活かし、当社の高い技術力を活用して、お客様が求めるニーズにマッチした新製品の開発をリードしていくことが私のミッションだと考えています。

——2015年3月期を振り返り、事業環境と所感についてお聞かせください。

2015年3月期は、為替の円安の進行による原料価格の上昇やエネルギーコストの増加などで大変厳しい経営環境となりました。当社は2014年3月期から3年間の中期経営計画を策定し、全社でその達成に向け邁進してきましたが、想定以上の円安の進行をはじめとする事業環境の大幅な変化により、2015年3月期を以て計画を中止することといたしました。ただ、ゼラチンの国内売上高は増加しており、コラーゲンケーシングについても、北米市場での販売が堅調に推移したことで売上、利益とも増加しています。このように、総じて製品に対する需要は堅調に推移しており、これらの需要を確実に取り込んでいくことが重要になります。今後は、地域に応じ

た最適生産・最適販売をさらに推進することにより、収益体質を強化していきたいと考えています。

——新社長としての経営方針についてご説明ください。

当社は2018年に創業100年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたって、スローガンに「新たな視点で次のステージへ」、基本戦略に「質の追求」を掲げ、次の100年に向けた経営基盤の強化を図っていく考えです。新スローガンは、投資によりグローバル生産体制を拡大するステージから、利益を創出し投資を回収する次のステージに踏み出すことを意味しています。また、基本戦略の「質の追求」とは、製品の品質のみならず、営業・サービスの質、社員の能力などのレベルアップを図り、ステークホルダーの皆様から評価され、企業価値を高めていこうという強い意志を表しています。具体的な戦略課題として、①高付加価値製品の開発、②最適生産・最適販売、③グローバル経営基盤の強化の3点に取り組んでいく所存です。

——2016年3月期の見通しと具体的な施策についてお聞かせください。

グローバルな生産体制が整備されたことを踏まえ、国内で生産したものは国内で販売し、海外の工場で生産したものは現地で販売する「地産地消」を推進していきます。特に成長市場であるアジアでの販売拡大と、最適地での生産によるコスト低減で収益体質の強化を図ります。

新製品開発についてはアクティブシニア層に対する製品開発に力を入れたいと考えています。今のシニアの方は健康で活動的な生活を楽しまたいという思いを持っておられる方が多く、例えば、生体調節機能が認められているコラーゲンペプチドの注目度はますます高まるでしょう。普段の食事の中で摂取できるような、当社の技術ならではの新製品の開発をイメージしています。

なお、当期純利益の減益予想につきましては、持分法適用関連会社のニッタゼラチンインディアLtd.を本年4月から連結子会社化することに伴う特別損失の計上による一時的なもので、この影響を除けば実質的には増益となる見込みです。

——株主・投資家に対してメッセージをお願いします。

当社は素材メーカーであることから、一般の消費者の方にとっては事業内容を理解していただくことが難しい側面があります。したがって、今後も投資家の皆様との直接対話を積極的に続けていきたいと考えています。特に個人投資家の皆様には、株主優待や株主総会での情報提供、株主通信などによる積極的な情報発信により、当社への理解をより深めていただくよう努めていきたいと考えています。当社が持続的に成長していくためにも、まずは2016年3月期の計画達成に向け、全社員の先頭に立って邁進してまいります。今後ともご支援をお願いいたします。

新田ゼラチンの製品は、皆様の身近な食品だけではなく、様々な分野で使われています。ここでは、新田ゼラチンの最先端の取り組みについてご紹介いたします。

健康長寿と新田ゼラチン

ゼラチンを低分子化処理したコラーゲンペプチドには肌、関節、骨、筋肉の機能を健康に維持する効果が認められています。「Wellnex」は、新田ゼラチンが開発した高機能コラーゲンペプチドです。「Wellnex」とは、「健康で活動的な生活を」との願いから、「健康」を意味する「Wellness」と「無限の可能性」を表す「X」をあわせた造語です。

2014年10月に東京で「Nittaコラーゲンペプチド・シンポジウム」を開催しました。当日はお客様、海外代理

店、マスコミなど約200名をお招きし、日本のコラーゲンペプチド研究分野で著名な先生方から「コラーゲンペプチドの新未来」をテーマにご講演いただきました。食品の機能性表示規制緩和によりコラーゲンペプチドへの注目は高まっており、マスコミから多くの取材を受けました。

「Wellnex」をもっとよく知っていただくため、情報サイト「Wellnex-Collagen.com」を開設しました。当社のホームページからもアクセスできますので、是非ご覧ください。

Wellnex ウェルネックス



Wellnex-Collagen.com ウェブサイト



Nittaコラーゲンペプチド・シンポジウム

最先端ITと新田ゼラチン

スマートフォンやデジタルカメラの気密性を高めるシーリング材(高機能樹脂)に新田ゼラチンの接着剤技術が応用されています。「G-zain」は接着剤で培った特許技術から生まれた高機能樹脂で、これにより、従来手作業で行っていたパッキンの取り付け作業の完全自動化が可能となりました。

2014年8月には、新棟AIC(Adhesive Innovation Center:接着剤技術革新センター)を竣工し、高機能樹脂のさらなる可能性追求と新製品開発に取り組んでいます。

G-zain[®]
ジザイン



高機能樹脂使用事例



AIC(接着剤技術革新センター)

再生医療と新田ゼラチン

高齢者の主な失明原因である、加齢黄斑変性治療のため、世界で初めて行われたヒトiPS細胞由来の網膜色素上皮細胞移植手術で、新田ゼラチンが開発したコラーゲンが活躍しました。

新田ゼラチンの誇る技術力で開発した培養用コラーゲンは、細胞を安全に高効率で増やすことができます。

細胞培養用コラーゲンである「Cellmatrix」シリーズ、医療用ゼラチン・コラーゲンである「beMatrix」シリーズは再生医療の分野で活躍しています。

2015年3月にパシフィコ横浜で開催された日本再生医療学会総会でも、当社のゼラチンやコラーゲンをを用いた研究が数多く発表され、大きな反響をいただきました。

beMatrix[®]

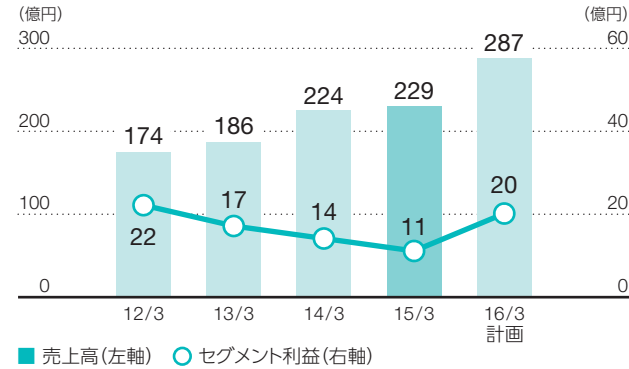


beMatrixシリーズ製造風景

営業概況

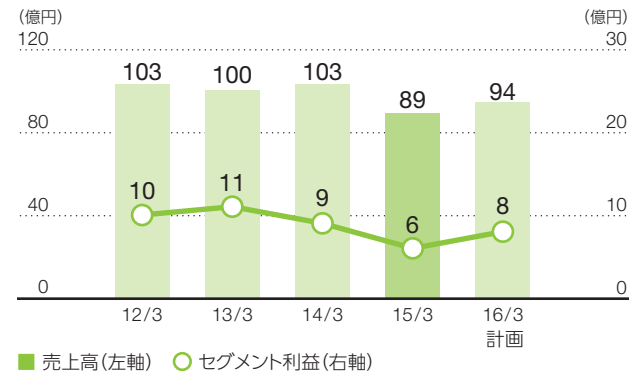
コラーゲン素材事業

売上高 **229.5億円** (前期比 +2.3%)
セグメント利益 **11.0億円** (前期比 △22.4%)



フォーミュレーション事業

売上高 **89.5億円** (前期比 △13.7%)
セグメント利益 **6.4億円** (前期比 △29.6%)



ゼラチン

【日本】

- 食用とカプセル用販売が増加
- 原料価格の高止まり及び価格改定が円安の進行に追いつかず利益が減少

【北米】

- 米国でのフィッシュオイルに関するネガティブ情報により、サプリメント市場が一時的に縮小しカプセル用の需要が減少、また豚皮原料価格の上昇もあり利益も減少

コラーゲンペプチド

【日本とアジア】

- アジア地域での販売は堅調
- 日本での消費税増税に伴う購買意欲の低迷が払拭しきれず、売上が減少

コラーゲンケーシング

- 北米市場での販売が堅調に推移し、売上、利益ともに増加

食品材料

- 消費税増税に伴う需要の減少と夏場の天候不順により、食品安定剤が低調に推移

接着剤

- ホットメルト形接着剤の包装用、製本用の低迷に加え、衛生材料用が中国への生産移転により大きく減少
- シーリング材は、スマートフォン用及びスマートウォッチ用の納入が始まるが、本格的な採用には至らず売上が伸び悩む

財務諸表(要旨)

連結貸借対照表 (単位:百万円)

	2014年 3月末	2015年 3月末	前期末比
資産の部			
① 流動資産	18,685	18,038	△646
現金及び預金	2,426	2,622	196
受取手形及び売掛金	8,164	6,726	△1,438
商品及び製品	4,732	4,821	89
仕掛品	1,089	1,243	154
原材料及び貯蔵品	1,820	2,156	335
繰延税金資産	158	139	△18
その他	306	330	23
貸倒引当金	△13	△2	10
② 固定資産	12,704	15,893	3,188
有形固定資産	8,804	10,848	2,044
建物及び構築物(純額)	2,815	4,414	1,599
機械装置及び運搬具(純額)	2,139	4,390	2,251
土地	768	781	12
リース資産(純額)	660	651	△9
建設仮勘定	2,260	435	△1,825
その他(純額)	159	175	15
無形固定資産	50	69	18
投資その他の資産	3,849	4,974	1,125
資産合計	31,389	33,932	2,542

	2014年 3月末	2015年 3月末	前期末比
負債の部			
流動負債	10,080	10,274	194
支払手形及び買掛金	4,255	3,768	△486
短期借入金	1,121	1,705	583
1年内返済予定の長期借入金	1,932	2,127	194
リース債務	215	232	16
その他	2,554	2,441	△113
③ 固定負債	7,528	8,283	755
長期借入金	4,415	4,867	451
その他	3,112	3,415	303
負債合計	17,608	18,558	949
純資産の部			
株主資本	14,734	15,423	688
その他の包括利益累計額	△1,097	△152	945
少数株主持分	144	102	△41
④ 純資産合計	13,781	15,373	1,592
負債純資産合計	31,389	33,932	2,542

POINT

- ① 流動資産 債権流動化等により受取手形及び売掛金が1,438百万円減少、たな卸資産が579百万円増加
- ② 固定資産 有形固定資産が2,044百万円、時価上昇により投資有価証券が908百万円増加

- ③ 固定負債 長期借入金が451百万円、繰延税金負債が185百万円増加
- ④ 純資産 利益剰余金が688百万円、その他有価証券評価差額金が498百万円、為替換算調整勘定が788百万円増加

財務諸表(要旨)

連結損益計算書 (単位:百万円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	前期比
① 売上高	32,814	31,914	△899
売上原価	26,329	25,944	△385
売上総利益	6,484	5,970	△513
販売費及び一般管理費	5,528	5,577	49
② 営業利益	955	392	△562
営業外収益	368	805	437
営業外費用	208	230	21
③ 経常利益	1,115	967	△147
特別利益	89	—	△89
特別損失	134	34	△99
税金等調整前当期純利益	1,070	933	△136
法人税、住民税及び事業税	350	376	25
法人税等調整額	67	△23	△91
法人税等合計	418	353	△65
少数株主損失(△)	△13	△29	△16
当期純利益	665	610	△55

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	前期比
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	△692	2,074	2,767
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,105	△2,505	599
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	3,875	544	△3,330
現金及び現金同等物に係る換算差額	70	83	13
現金及び現金同等物の増加額	147	196	49
現金及び現金同等物の期首残高	2,258	2,406	147
現金及び現金同等物の期末残高	2,406	2,602	196

POINT

- ① 売上高
消費税増税及び天候不順などにより、前期比2.7%減少
- ② 営業利益
国内エネルギーコストの上昇と円安による輸入仕入れコスト高止まりなどにより、前期比58.9%減少
- ③ 経常利益
為替差益により、前期比13.2%減少

POINT

- ① 営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前当期純利益933百万円、減価償却費1,115百万円、売上債権の減少額1,740百万円及び仕入債務の減少額802百万円
- ② 投資活動によるキャッシュ・フロー
有形固定資産の取得による支出2,449百万円
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー
長期借入れによる収入2,495百万円、長期借入金の返済による支出2,147百万円及び短期借入金の純増額454百万円

会社情報

会社概要 (2015年3月31日現在)

本店…… 〒556-0022
大阪市浪速区桜川4丁目4番26号

創業…… 1918年1月

設立…… 1945年2月

資本金… 3,144,929,400円

売上高… 単体:218億円(2015年3月期)
連結:319億円(2015年3月期)

従業員数 単体:253名
連結:595名

事業内容 食用、医薬用、写真用ゼラチンの製造・販売
コラーゲンペプチドの製造・販売
コラーゲンケーシングの製造・販売
化粧品用、生体材料用、生化学用コラーゲンの製造・販売
ゲル化剤、安定剤などの食品材料の製造・販売
包装用、製本用、建材用、衛材用接着剤の製造・販売

事業所… 国内10カ所
海外15カ所

関係会社 (2015年3月31日現在)

Nitta Gelatin NA Inc. (米国)
Nitta Gelatin Canada, Inc. (カナダ)
Nitta Gelatin USA, Inc. (米国)
Nitta Casings Inc. (米国)
Nitta Casings (Canada) Inc. (カナダ)
Nitta Gelatin Holding, Inc. (米国)
Nitta Gelatin India Ltd. (インド)
Bamni Proteins Ltd. (インド)
Reva Proteins Ltd. (インド)
上海新田明膠有限公司(中国)
北京新田膠原腸衣有限公司(中国)
Nitta Hong Kong Ltd. (中国)
Nitta Gelatin Vietnam Co., Ltd. (ベトナム)
株式会社アルマコーポレーション
株式会社ニッタバイオラボ
彦根ゼラチン株式会社
ポスティック・ニッタ株式会社
広東百維生物科技有限公司(中国)
新寿サービス株式会社

役員 (2015年6月25日現在)

取締役会長	曾我 憲道
代表取締役社長	尾形 浩一
取締役 専務執行役員	佐々木 恒雄
取締役 執行役員	玉岡 徹
取締役 執行役員	レイモンド・メルツ
取締役	新田 浩士
取締役(社外)	石原 真弓
取締役(社外)	末川 久幸
常勤監査役	中井 康之
監査役(社外)	東郷 重興
監査役(社外)	津田 多聞
常務執行役員	山本 健男
執行役員	竹宮 秀典
執行役員	山本 祐二
執行役員	小田 義高
執行役員	高瀬 博
執行役員	杉本 芳久
執行役員	ヨーゲン・ギャラート

株式データ

株主優待

株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、中長期的に株式を保有していただける株主様の増加を図ること及び当社グループの事業へのご理解を賜りたく、株主優待を実施いたします。

〈株主ご優待制度の内容〉

●対象の株主様

毎年3月31日現在の株主名簿に記載された当社株式1単元(100株)以上を保有する株主様を対象といたします。

●優待内容

当社子会社のニッパバイオラボが販売する、消費者向け商品(健康食品、化粧品、ゼラチンなど)、もしくは、当社商品のお買物優待券をご所有株式数に応じて贈呈いたします。



株主優待商品例
(3,000円相当)
※諸般の事情により、商品セットの内容を変更することがございます。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して 定めた日
単元株式数	100株
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	4977
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
(電話照会先)	フリーダイヤル 0120-782-031
(インターネット ホームページ)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
	取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

株式の状況 (2015年3月31日現在)

発行可能株式総数

50,000,000株

発行済株式の総数

18,373,974株

(自己株式 162株を含む)

株主数

6,960名

株式・株主分布状況

